

## 令和3年度 長野市中心市街地活性化プラン 数値目標フォローアップ

令和4年6月6日

## 1 目標指標の状況

活性化の目標	目標指標	基準値 (H28)	目標値 (R03)	最新値		目標達成状況	
				数値	時点	R 2	R 3
目標1 行きたくなるまち	善光寺仁王門前の歩行者・ 自転車通行量 (人/日)	27,150	30,000	18,288	R03.10	C	C
目標2 住みたくなるまち	総人口に対する中心市街地の 人口比率 (%)	2.47	2.65	2.52	R03.10	B	B
目標3 巡りたくなるまち	①中心市街地（6地点）の 歩行者・自転車通行量 (人/日)	112,504	108,000	77,480	R03.09	C	C
	②中央通り及び権堂アーケード 沿い1階部分の空き店舗数 (件)	21	21	25	R03.10	B	C
目標4 交わりたくなるまち	もんぜんぶら座及び生涯学習 センター並びに権堂イースト プラザ市民交流センターの利用 者数 (人/年)	560,735	583,000	209,475	R04.03	C	C

※ 目標達成状況（目標3の②空き店舗数については、21件より少ない場合A）

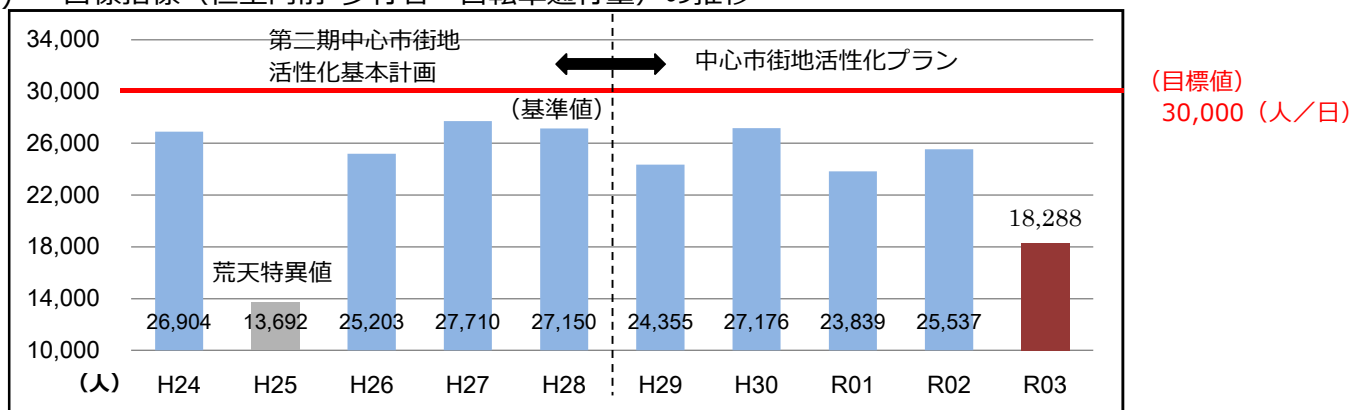
A：目標値以上

B：基準値以上、目標値未満

C：基準値未満

## 2 目標1「行きたくなるまち」について

## (1) 目標指標（仁王門前 歩行者・自転車通行量）の推移



## (2) 目標の達成状況と今後の方針（令和3年度の目標達成状況 C：基準値未満）

令和3年度の通行量は、歩行者調査区域全体では前年比95.6%と引き続き減少傾向であった。目標指標である「善光寺仁王門前の歩行者・自転車通行量」については、昨年度はGoToトラベルの効果か、通行量が前年比で増加したものの、今年度は前年比71.6%と大きく減少した。

調査日時点では感染状況は落ち着いていたものの、7月から9月に新型コロナウイルス第5波を迎えたことによる自粛ムードなどにより、観光目的の外出が減少したものと考えられる。

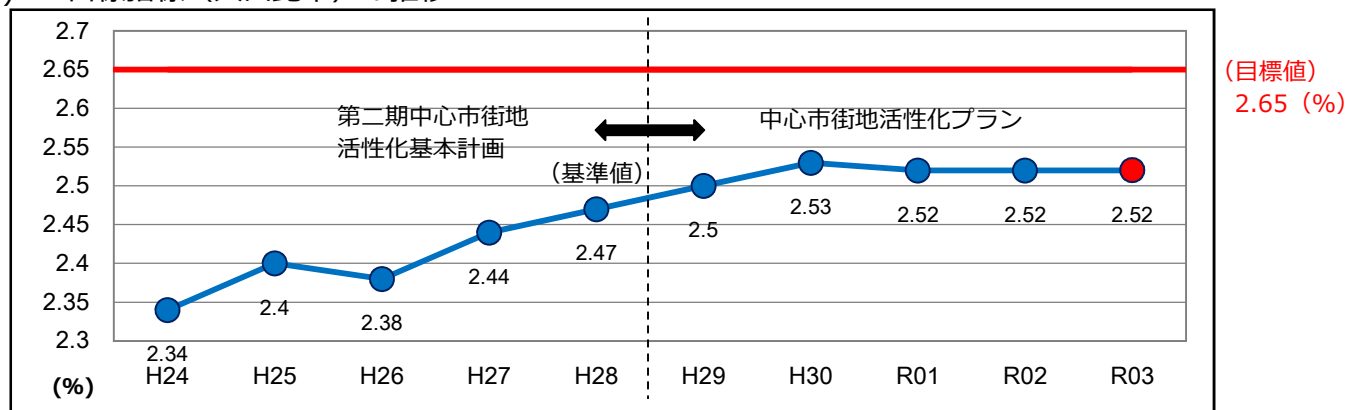
調査地点周辺ではリノベーションによる魅力ある店舗が増加しており、周辺の回遊性を高めることで表参道周辺を通行する人が増える可能性がある。引き続き街なみ環境整備及び「パティオ大門運営

事業」などの事業を実施することによって周辺の魅力を向上させ、新型コロナウイルス終息後における表参道の歩行者増につなげる必要がある。

また、令和3年度に完成した長野県立美術館及び城山公園噴水広場は、今後善光寺とともに、信州の魅力を発信する文化・観光の一大拠点として周辺の歩行者の増加に貢献すると見込まれる。

### 3 目標2「住みたくなるまち」について

#### (1) 目標指標（人口比率）の推移



【長野市総人口、中心市街地人口の実数】（単位：人）

年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
長野市総人口	386,882	385,897	384,641	383,639	382,249	380,593	378,351	376,104	374,273	371,997
中心市街地人口	9,057	9,245	9,157	9,351	9,426	9,516	9,585	9,472	9,422	9,366

#### (2) 目標の達成状況と今後の方針（令和3年度の目標達成状況 B：基準値以上、目標値未満）

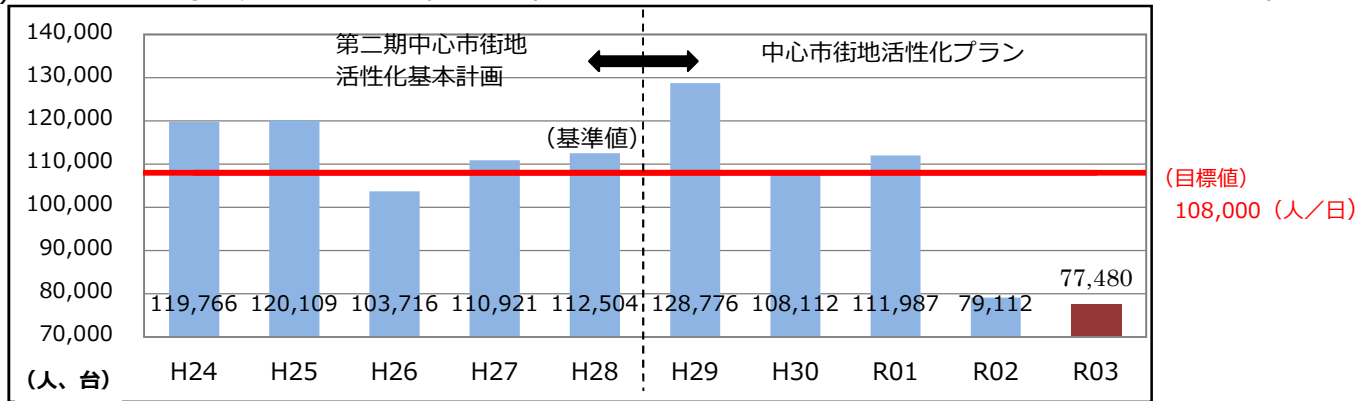
目標指標である「総人口に対する中心市街地の人口比率」は昨年度の2.52%と同率であり、直近3年間の数値は横ばいの状態が続いている。

人口推移を町別で見ると、大字南長野南石堂町の人口が24%増加しており、「南石堂A-1地区優良建築物等整備事業」が令和3年度に完成したことが大きな要因であると考えられる。

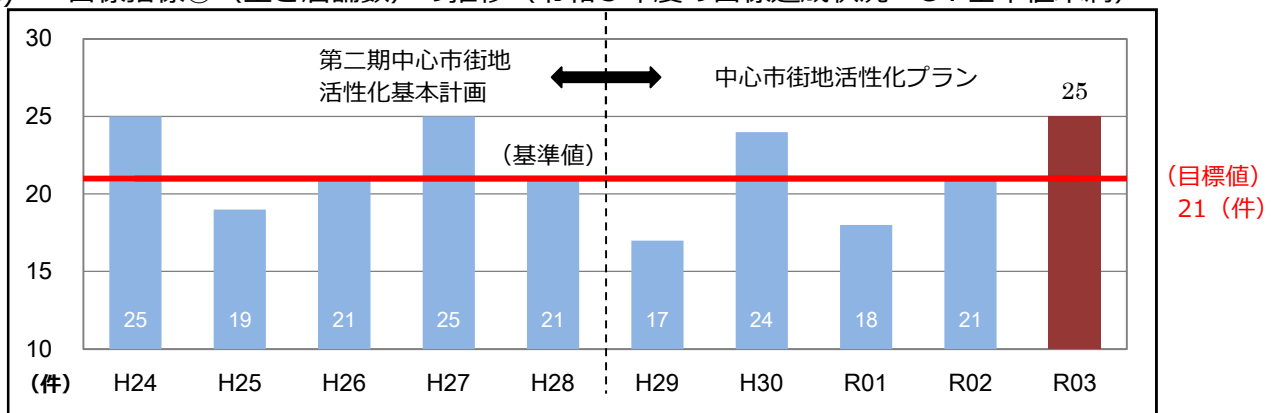
今後も中心市街地ではマンションの建設が予定されており、それらへの入居に伴う人口の増加が見込まれるが、既存住宅の居住者については減少が見込まれるため、引き続き遊休不動産活用事業により、古い建物に価値を見出す若者の中心市街地への転入を促していく。

#### 4 目標3「巡りたくなるまち」について

(1) 目標指標①（歩行者・自転車通行量）の推移（令和3年度の目標達成状況 C：基準値未満）



(2) 目標指標②（空き店舗数）の推移（令和3年度の目標達成状況 C：基準値未満）



#### 【空き店舗数の地域別内訳】

年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
善光寺表参道	17件	12件	14件	17件	19件	16件	21件	14件	17件	17件
権堂アーケード	8件	7件	7件	8件	2件	1件	3件	4件	4件	8件

(3) 目標の達成状況と今後の方針

目標指標①の歩行者・自転車通行量（グラフ（1）参照）は、中心市街地内の6地点（32ポイント）で測定している。内訳は歩行者65,221人、自転車12,259台で、前年度との比較では歩行者が239人減少、自転車が1,393台減少した。6地点それぞれの前年度との比較では、南千歳町のみ歩行者・自転車ともに増加しており、その他の地点ではいずれも減少している。調査日が新型コロナウイルス感染拡大防止のための「命と暮らしを救う集中対策期間」内であったことが影響したと考えられる。

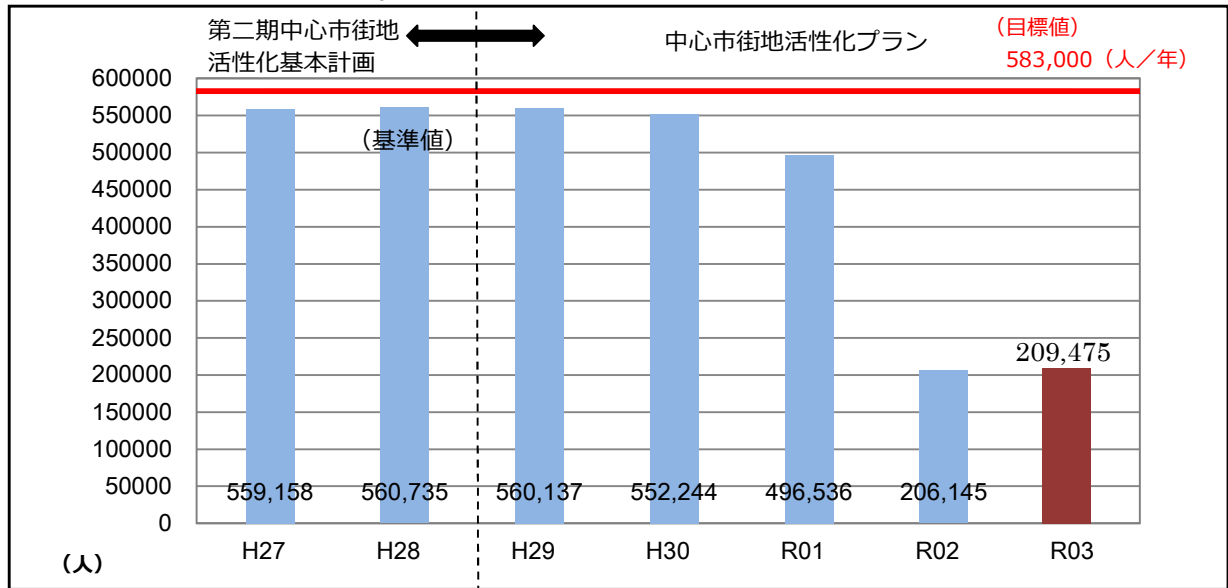
今後は、「まちなか賑わい創出事業」や「中央通り歩行者優先道路化事業（Ⅱ期）」などにより、これまで以上に回遊性の向上を推進し、「巡りたくなるまち」の目標実現につなげていく必要がある。

目標指標②の中央通り及び権堂アーケード沿い1階部分の空き店舗数（グラフ（2）参照）は、空き店舗数が昨年度から4店舗増加した。内訳は、今年度の新規出店等による空き店舗解消5件、住宅への転用等による減少3件、前年度からの継続空き店舗13件、今年度の新規空き店舗12件である。新型コロナウイルスの影響などにより、業種を問わず空き店舗が散見された。

今後は「集客イベント等開催事業」や「空き店舗等活用事業」などにより、空き店舗の減少を進め、「巡りたくなるまち」の目標実現につなげていく必要がある。

## 5 目標4「交わりたくなるまち」について

### (1) 目標指標（施設利用者数）の推移



### (2) 目標の達成状況と今後の方針（令和3年度の目標達成状況 C：基準値未滿）

目標指標である「もんぜんぷら座及び生涯学習センター並びに権堂イーストプラザ市民交流センターの利用者数」は、前年度より3,330人増加したが、5年前（基準値）と比較すると351,260人減少した。

施設ごとの利用者数は「もんぜんぷら座」が前年度より541人減少、「生涯学習センター」は前年度より4,960人増加、「権堂イーストプラザ」は前年度より1,089人減少している。

新型コロナウイルスの感染者が急増し、まん延防止等重点措置が講じられた2月から3月にかけては、前年と比較して利用者数が大きく減少しており、すべての施設において、前年度同様に新型コロナウイルス感染症対策が影響したと考えられる。

今後は、社会情勢の変化に応じて各種イベント、講座・講演会、学習室開放等を実施し、「交わりたくなるまち」の目標実現を目指していく。

（参考）新型コロナウイルスによる各施設の利用制限は次のとおり。ただし感染状況の拡大に伴うキャンセルも多くあったことから、利用者の自粛と施設の利用制限の複合的要因が影響したものと考えられる。

もんぜんぷら座：感染レベルにより、地下及びフリースペースを閉鎖。

生涯学習センター：利用人数制限及び交流サロン利用者の限定を実施。

権堂イーストプラザ：利用人数制限を実施。